

アルミニウム加工業の三協製作所(東京都、増田喜義社長)の山形工場(長井市)は、2009年から長井工業高生を対象に品質管理(QC)講座を開催。QC検定(日本規格協会など主催)を受ける生徒数の増加につなげ、地元製造業の担い手育成に貢献している。他企業にも社員の受検を呼び掛け、ことしは同校の生徒を含め長井地区で100人以上が希望。人数の要件を満たし、先の第17回検定は念願の地元受検が実現した。

同社は製品向上やコスト削減に効果のある品質管理部門を重視。山形工場では社員約150人中30人近くがQC検定に合格している。検定は4級から1級まであり、年2回。1、2級の合格者は会社のチームリーダーとして即活躍できる知識レベルだ。将来のものづくりを担う高校生が早期に資格を取得し、就職活動でもプラスの評価を得てほしいと、地域貢献の一環で講座を始めた。

三協製作所山形工場(長井)

品質管理の基本 伝授

生徒を中心に受講。社員が品質管理に必須の統計処理や、ヒストグラム(データのばらつきを調べるグラフ)を用いた問題点の導き方などについて分かりやすく教える。また、工場を見せて品質管理の重要性、効果を認識してもらっている。

受検する生徒は年々増え、昨年3月の第15回検定は50人ほどに。3級の合格率77%、4級は74%と上々の結果を収めた。機械システム科長の高橋啓教諭(34)は「高い技術力を持つ三協製作所の指導で生徒も教諭も意識付けが図られる。感謝したい」と話す。

今月23日の第17回には全学科から76人がエントリー。同社と、呼び掛けに応じた他社の社員も含め希望者は計113人となった。100人以上の団体申し込みがあると地元での受検が認められる。今回は長井工業高が会場となり、受検者の負担も軽減された。

長井工高生に 検定受検増、人材育成にも

同社の小林重幸常務(72)は「産学連携で、ものづくりのマチ・長井の地力強化が図られればうれしい」。同校OBでもある小松幸男総務部長(58)は「受検者を増やし、長井の製品や人材がさらに評価されるよう協力していきたい」と話している。



三協製作所の社員が講師となり、生徒に品質管理のポイントを教えている

＝長井工業高